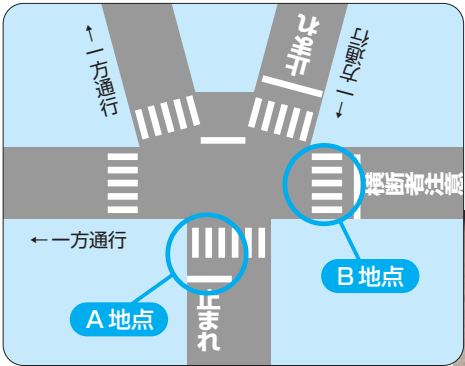


混合交通を観察する DOCUMENT EYE series—243

交差点での車両の一時停止状況等を観察する

●観察場所／東京都港区麻布十番2-8丁目付近
●観察日／5月20日(金曜日)
●観察時間／15:40~17:40
●観察者／3名



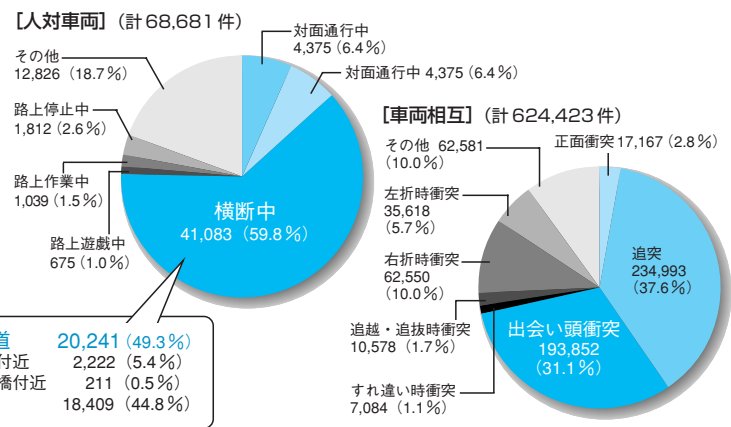
信号機のない交差点で、車両は一時停止や歩行者保護をきちんと行っているか？



Why 対歩行者事故の多くは「横断歩道を横断中」に起きよう！

平成22年の交通事故件数を事故類型別にみると、車両相互では「追突」と「出会い頭衝突」が全体の約6割を占め、対歩行者では横断歩道を「横断中」で最も事故が起きている。

●平成22年の事故類型別交通事故件数(警察庁資料)



れていないことも多く、通行の判断は個々の判断に委ねられている。事故を防ぐためには、「一時停止」「安全確認」を

Q1 一時停止標識のある道路で確実に一時停止した車両は何%いたでしょうか？

A 実際の観察から

★Q1の回答 一時停止した車両は746台中278台(37.3%)

観察地点で一時停止が必要な車両は746台。内訳は四輪車が588台中342台(58.2%)、二輪車が80台中51台(63.8%)、自転車は78台中75台(96.2%)が一時停止を行って

いなかった。優先道路と交差する道路側は登り坂と下り坂があり、特に坂を下ってきた車両は、徐行しながら歩行者の有無を確認するドライバーが多く、一時停止線およびその先でも停止しなかった。

また、歩行者が横断歩道の手前にいる場合も、そのまま走り続ける車両がほとんどで、歩行者が横断中でもギリギリと接近していく光景を多く見かけた。自転車でも一時停止を行ったのはわずか3台だった。車両としての意識が薄く、停止線の前後で進路を急にえたり、横断中の歩行者を避けるため、停止線の直前で歩道上に移り、そのまま横断歩道を走行するケースも少なくなかった。



一時停止線を超えて停止する車両

Table with 4 columns: Vehicle Type, Stop Status (O/X), and Total Count. Rows include 四輪車, 二輪車, 自転車, and 小計.

Table with 4 columns: Vehicle Type, Protection Status (O/X), and Total Count. Rows include 四輪車, 二輪車, 自転車, and 小計.

Table with 4 columns: Vehicle Type, Right-of-Way Status (O/X), and Total Count. Rows include 四輪車, 二輪車, 自転車, and 小計.

より慎重に行く必要がある。そこで今回は、信号機のない交差点で車両の一時停止と歩行者保護状況を観察した。

Advice 必ず一時停止を行い、「見る」ではなく「観る」を！

実際の観察から、一時停止や歩行者保護において、全体的に運転者の行動にメリハリがなく、特に自転車利用者の9割以上が交通ルールを守っていない結果となった。

左右確認の有無でもその傾向は変わらず、四輪車が588台中493台(83.8%)、二輪車が80台中70台(87.5%)と多くのドライバー・ライダーが左右確認を行っていたが、自転車利用者は78台中41台(52.6%)と約半数に留まった。



Q2 歩行者保護のために横断歩道手前で停止した車両は何%いたでしょうか？

★Q2の回答 歩行者保護のために停止した車両は、318台中134台(42.1%)

観察地点で歩行者保護が必要な車両は318台(歩行者が横断歩道を横断中、もしくは横断歩道直前で渡る素振りを見せていた場合など)。内訳は四輪車が264台中142台(53.8%)、二輪車が22台中13台(59.1%)、自転車は32台中29台(90.6%)が横断歩道を横断しようとしている歩行者を遮って通過していた。



停止した車両の間を通行する歩行者